

平成 27 年度 石狩市教育委員会会議（11 月定例会）会議録

平成 27 年 11 月 13 日（金）

開 会 13 時 30 分

第 2 委員会室

○委員の出欠状況

委 員 氏 名	出席	欠席	備 考
委員長 徳 田 昌 生	○		
委 員 門 馬 富士子	○		
委 員 松 尾 拓 也	○		
委 員 山 本 由美子	○		
教育長 鎌 田 英 暢	○		

○会議出席者

役 職 名	氏 名
生涯学習部長	百 井 宏 己
生涯学習部次長（教育指導担当）	武 田 淳
生涯学習部次長（社会教育担当）	東 信 也
総務企画課長	蛭 谷 学 俊
学校教育課長	安 崎 克 仁
文化財課長	工 藤 義 衛
厚田生涯学習課長	熊 谷 隆 介
浜益生涯学習課長	開 発 克 久
教育支援センター長	板 谷 英 郁
特別支援教育担当課長	森 朋 代
学校給食センター長	成 田 和 幸
市民図書館副館長	清 水 千 晴
生涯学習部参事（指導担当）	濱 本 賢 一
総務企画課主幹	松 永 実
総務企画課総務企画担当主査	高 石 康 弘

議事日程

日程第 1 会議録署名委員の指名

日程第 2 議案審議

議案第 1 号 学校整備の具体策（案）について（非公開）

議案第 2 号 石狩市教育委員会職員の人事異動について（非公開）

議案第 3 号 教育委員会の点検・評価報告書（平成26年度分）について

議案第 4 号 平成 2 7 年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載に関わる同意について

日程第 3 教育長報告

日程第 4 協議事項

- ① 平成 28 年度教育委員会予算要求について（非公開）

日程第 5 報告事項

- ① 平成 27 年度全国学力・学習状況調査結果について
- ② 平成 28 年石狩市成人式について（開催案）

日程第 6 その他

- ① 図書館ワークショップ「みんなで話す、図書館カフェ」の開催について

日程第 7 次回定例会の開催日程

開会宣告

（徳田委員長）皆さん、こんにちは。只今から、平成 27 年度教育委員会会議 11 月定例会を開会します。

日程第 1 会議録署名委員の指名

(徳田委員長) 日程第1 会議録署名委員の指名ですが、門馬委員にお願いします。

日程第2 議案審議

(徳田委員長) 日程第2 議案審議を議題とします。

議案第1号及び議案第2号を非公開とする件について

(徳田委員長) 議案第1号「学校整備の具体策(案)について」は、石狩市教育委員会会議規則第15条第1項第6号及び第10号に該当しますので、非公開案件として後ほど審議したいと思います。ご異議ありませんか。

異議なし

(徳田委員長) ご異議なしと認め、非公開とすることに決定いたしました。

(徳田委員長) 次に、議案第2号「石狩市教育委員会職員の人事異動について」は、石狩市教育委員会会議規則第15条第1項に該当しますので、非公開案件として後ほど審議したいと思います。ご異議ありませんでしょうか。

異議なし

(徳田委員長) ご異議なしと認め、非公開とすることに決定しました。

議案第3号 教育委員会の点検・評価報告書(平成26年度分)について

(徳田委員長) 次に、議案第3号「教育委員会の点検・評価報告書(平成26年度分)について」、提案をお願いいたします。

(鎌田教育長) 議案第3号「教育委員会の点検・評価報告書(平成26年度分)について」ですが、過日行われました外部評価委員会の意見を踏まえて、別紙のとおりまとめましたので、それについてのご審議をお願いしたいと思います。

詳細につきましては担当の方からご説明させていただきますのでよろしくお願いします。

（蛭谷総務企画課長）私から議案第3号、教育委員会の点検評価報告書平成26年度分について説明申し上げます。教育委員会の点検評価報告書につきましては、7月の定例教育委員会議において原案について提出し、委員の皆様からご意見をいただきながら、8月の定例会議での継続審議を経て、9月の定例会議において外部評価委員会議に諮る報告書案について了解をいただいたところでございます。今、教育長からも説明がありましたように、去る10月26日に外部評価委員会を開催いたしまして、点検・評価報告書について外部評価委員の皆様にご審議いただきました。外部評価委員会においては、教育委員会の活動状況及び教育に関する事業の点検評価を審議し、教育に関する事業の点検評価については教育プランに掲げる施策の大項目ごとに意見を伺ったほか、全体に関するものを最後に意見を伺うといったかたちで進められました。外部評価委員からのご意見につきましては、点検・評価報告書の41ページから44ページにかけて記載しております。この意見において最初に教育委員会の活動状況についての意見を掲載いたしまして、次に施策別の取り組み状況、分析評価等について記載し、この施策に対する意見については全体に関する意見の次に、施策の大項目ごとにそれぞれ記載の通り意見が出されたところでございます。教育委員会の活動に関しましては、引き続き積極的に教育現場の事態把握に努めることを要望する、または外部評価委員と教育委員との意見交換の機会を設けることについての要望があったところでございます。この件につきましては、事務局において日程等の調整を今後行いたいと考えているところでございます。施策別の取り組み状況等につきましては、各取り組みに対して全体的に引き続き継続実施の要望をいただきましたが、更なる事業の充実や、また関係部局との連携を大切にしながら、事業がより効果的になるよう期待する旨の意見があったところでございます。これらの意見につきましては、今後の教育施策の展開に活用してまいりたいと存じます。以上、点検・評価報告書につきましては、本日ご審議の上議決をいただきました後におきましては、今月下旬または12月にかけて議会に提出し、その後市のホームページでの公開を予定しているところでございます。以上、議案第3号について説明申し上げます。

（徳田委員長）ただ今、提案説明のありました議案第3号につきまして、質問等ありませんでしょうか。

（松尾委員）今回このように26年度のことを取りまとめ、ようやく終わりつつあ

る状況なので、今後のことを伺うのは少し気が早いかもしれませんが、この点検・評価報告書の構成については色々な試行錯誤もあって、今の形になりつつあるという状況であると思うのですが、事務局の感触としては、大体スタイルとしては落ち着いてきたかなというような感覚なのではないでしょうか。それとも例えばこういうところを今回取りまとめをしながら、少し変えていきたいなというものがもしあればお聞かせいただければと思うのですが。

（蛭谷総務企画課長）まずこの教育プランの進行状況についてですが、今回の26年度の点検評価は、前期プランの一つの区切りということになります。次年度、27年度以降につきましては、後期の教育プランの年次に入っていきます。このようなことから、基本的に今までこの数年間の点検評価のまとめについては、事務局といたしましては、教育プランに掲載された施策事業についてそれぞれ余すところ無く項目評価点検し、また最終的には教育委員の皆様のご意見や外部評価委員の意見をいただけてきましたので、これはこれで内容としては適切ではないかと思っています。一方、来年度以降は、今申し上げましたように、後期のプランの年度になってきます。後期プランの策定においては、指標の見直しなどについてのご意見や、指標が一部変わったところもございますので、あらためて構成等を検討したうえで来年度の点検・評価報告書の事務作業を進めてまいりたいと考えているところです。私からは以上です。

（松尾委員）わかりました。

（門馬委員）42 ページの大項目4、「学校教育を推進する環境の充実」のところに「子育てに関する不安解消」という1項があります。子育てに関しての経済的な不安感が増加していることから、部局を越えた対策を望むと。いみじくも私たちが市長部局と行っている総合教育会議の中で、市長が特に強調しておられた子どもの貧困問題、おそらくこのことを指して言うておられるのだらうと思うのですが、ここにも問題意識として、課題として出てきたなということを感じました。これについては市長部局とともに、私達教育委員も研究していこうということになっております。市長部局と教育委員会が一体となって解決していかなければいけない課題だなと感じました。以上です。

（山本委員）外部評価委員会の会議録を見させていただいたのですが、3名の外部評価委員からの意見として、41 ページから44 ページにとっても簡潔にまとめられており、良いご意見がたくさんあるなという印象を受けましたので、これからも様々な取組みについて見ていただきたいなというふうに感じました。

（徳田委員長）私も質問ではなく意見として申し上げます。山本委員のお話にもありましたように、評価委員から色々のご意見をいただいて、これを端的にまとめられて記載されておられるかと思うのですが、各委員にとっては色々と考えられた上で、文章としてこのようにまとめようということで決められたのだと思います。ただ、どのようなことを意図してこのように書かれたのかを知りたいという部分もありまして、先ほど蛭谷課長の方から日程を決めて外部評価委員会と教育委員の間に色々意見交換をする場を設定していただけるというお話をいただいたので、その方向でぜひお願いしたいと思っております。例えば43ページの大項目8の「生涯学習」のところに「次の一步が踏み出されることを望む」という記載がありますが、これはその委員にとってはこういう形もありうるのではないかというお考えのもとで今まとめられたのだと思います。その背景とかの部分を実は知りたいという気持ちもありますし、他にもいくつかありますので、その場で直接意見交換する機会ぜひお聞きしたいと思っております。それが私の感想です。他にご質問等はありませんか。

質問なし

（徳田委員長）それでは他に質問等が無いようですので、議案第3号については原案通り可決ということでよろしいでしょうか。

異議なし

（徳田委員長）ご異議なしと認め、議案第3号は原案通り可決いたしました。

議案第4号 平成27年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査北海道版結果報告書への市町村別結果の掲載に関わる同意について

（徳田委員長）次に、議案第4号「平成27年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載に関わる同意について」提案をお願いいたします。

（鎌田教育長）議案第4号「平成27年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載に関わる同意について」であります

が、去る 10 月 7 日付で北海道教育委員会から昨年度と同様に、結果の全道版への掲載について同意を求められているところでございます。詳細につきましては、担当からご説明させていただきますのでご審議をお願いしたいと思います。

（濱本指導担当参事）私から「平成 27 年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載に関わる同意について」説明申し上げます。これは、10 月 7 日付で北海道教育委員会教育長より、市町村の教育委員長宛にあったものです。資料の 14 ページをご覧ください。内容といたしましては、全国学力・学習状況調査と同様に、基本フォーマットとして各市町村の小学校・中学校別にレーダーチャート、それから各種データを踏まえた分析をし、各市町村の体力向上策を北海道が公表したいというものであります。資料の 6 ページをご覧ください。下から 2 行目の（イ）の①に、当該市町村における公立学校全体の結果について、それぞれの判断において（エ）に基づき公表することは可能であること、とされたことから、北海道が市町村の結果について同意を得て公表したいというものであります。事務局といたしましては、この基本フォーマットに沿って本市のデータを公表することが可能であると考えておりますので、委員の皆様にお諮りするものであります。15 ページをご覧ください。基本フォーマットが記載されておりますが、中ほどにあります各資料につきましても、児童質問紙及び学校質問紙の良い面を中心に、さらに分析では実技の課題も含めて明らかにしながら向上策を示していきたいと考えております。私からは以上です。

（徳田委員長）ただ今、提案説明のありました議案第 4 号につきまして、ご意見やご質問等はありませんか。

（門馬委員）昨年もこの公表を行ったわけですが、公表を行った結果、何か反応というか、反響はあったものなのでしょうか。

（鎌田教育長）この公表についての反応という点につきまして、正式な調査等も行われておりませんが、全道の市町村の教育長からは、特にこういう反応がありましたという報告は受けていませんので、おそらく全国学力状況調査と同じように、道民の反応というのはあまりないのかなと感じております。以上です。

（門馬委員）わかりました。

（徳田委員長）他に質問等はありませんか。

質問なし

(徳田委員長) 他に質問等が無いようですので、議案第4号については議案どおり可決ということでよろしいでしょうか。

異議なし

(徳田委員長) ご異議なしと認め、議案第4号は原案通り可決いたしました。

日程第3 教育長報告

(徳田委員長) 次に、日程第3「教育長報告」を議題といたします。

(鎌田教育長) 私から2点ほど報告させていただきます。

まず10月31日と11月1日に16回目の市民図書館まつりが開催され、その中で第4回調べる学習コンクールの表彰式が行われました。委員の皆さんは以前作品の実物も見られたと思いますが、今回の調べる学習コンクールにつきましては、応募数は昨年を若干下回る388点でありましたが、市内の小学校全13校からの応募と、さらには中学校の応募も昨年より1校増えたという状況で、このコンクールが着実に浸透してきていると思っております。特に、夏休みの課題として自主的に取り組む子どもが増えてきていることと、今年実施しました市民図書館での夏休み特別講座に参加した子どもの半数以上が応募してきている状況を見ると、今後も自ら課題を選んで図書館や地域の資源、あるいは資料を活用した新しい発見や調べる楽しさを広げていきたいと考えています。表彰式では小学生が3部門と中学部門の4部門で22の作品について表彰を行いました。その中の何点かにつきましては、昨年同様全国コンクールへ応募することになっています。

もう一点、11月4日に、第42回全道消防署職員意見発表大会道央地区予選会がりんくるで行われました。これは道央地区大会、石狩、空知、後志の第一線で活躍する消防職員による消防や防災に関することをテーマにした意見発表会です。会場は毎年持ち回りで開催しており、今年は石狩北部地区消防事務組合が担当ということで、花川北中の大西校長と私と二人、外部審査員としてこの審査に参加したところでございます。当日は8消防本部から16名が一人5分以内で発表して、救急や救命の大切さや防災意識、防災教育の重要性、更には消防団との連携の大切さなど、日頃の現場での実体験を元にした発表内容でありました。

その中で、ろう者とのコミュニケーションの手段である手話の大切さを発表した、石狩消防署勤務の職員が最優秀賞を受賞して、道央地区の代表として来年春に行われる全道大会に出場することになったところでございます。当日私が審査委員長ということで講評をしましたが、素晴らしい発表がほとんどでした。その中でやはり今回は石狩市での開催ということと、手話の基本条例を設定している石狩市ということで、この最優秀賞の職員は手話の大切さをテーマに、発表の全部を手話で行ったということが非常に高い評価を受けて、今回最優秀賞をおさめられたところで、この結果については市長にも報告をされております。以上です。

（徳田委員長）ただ今、教育長から報告がありましたがこの件についてご質問等ありませんでしょうか。

質問なし

（徳田委員長）他に質問等が無いようですので、教育長報告を了解ということでよろしいでしょうか。

異議なし

（徳田委員長）ご異議なしと認め、教育長報告を了解いたしました。

日程第 4 協議事項

① 平成 28 年度教育委員会予算要求について

協議事項①を非公開とする件について

（徳田委員長）協議事項①「平成 28 年度教育委員会予算要求について」は、石狩市教育委員会会議規則第 15 条第 1 項第 5 号に該当しますので、非公開案件として後ほど協議したいと思いますがご異議ありませんでしょうか。

異議なし

（徳田委員長）ご異議なしと認め、非公開とすることに決定いたしました。

日程第 5 報告事項

(徳田委員長) 次に日程第 5、報告事項を議題といたします。

① 平成 27 年度全国学力・学習状況調査結果について

(徳田委員長) 報告事項①「平成 27 年度全国学力・学習状況調査結果について」事務局から説明をお願いいたします。

(濱本指導担当参事) 私から報告いたします。平成 27 年度全国学力・学習状況調査北海道版結果報告書の掲載につきましては、10 月の教育委員会会議において同意をいただいておりますが、別紙（A 3 版）のとおり基本フォーマットとしまして小学校・中学校別のレーダーチャートに各種調査の分析を行い、良いところと課題点も含め掲載しております。続いて、A 4 版の資料（冊子）について説明します。2 ページをご覧ください。調査の目的に関しては、義務教育の機会均等と、その水準の維持向上の観点から継続的な検証・改善サイクルを確立し、教育指導の充実、学習状況の改善等に役立てるものです。調査の対象学年は小学校 6 年及び中学校 3 年となっております。内容に関しましては、国語、算数・数学に加え、今年度は理科が入っております。また、児童生徒、学校における質問紙調査も行っております。4 月 21 日に市内小学校 13 校、中学校 8 校、全ての小中学校で実施しております。3 ページをご覧ください。小学校の国語 A です。全道との比較で、本市の位置が丸印、全国の位置が星印となっており、A の方はやや低い、B の方はほぼ同様の解答となっております。昨年度は全国を上回っていましたが、今回は下回っております。国語 B の正答率に関しましては、平成 25 年度から年々高くなっている状況です。4 ページをご覧ください。成果の見られる設問例、課題の見られる設問例を挙げながら、指導の改善にあたっての方向性を探っているページであります。中ほどに成果の見られる設問例として「信念」という漢字を読む、それから「鳥の巣」の「巣」を書く部分については成果が見られておりますが、課題が見られる部分としては、文の主語を選択するという部分が課題として見られております。改善の方向としては、国語の授業において読解指導の中で、意識的に主語・述語を取り上げ指導していくことが必要であると考えております。5 ページをご覧ください。国語 B についてです。課題の見られる設問例としましては、文章と図とを関連づけて自分の考えを書く部分が挙げられま

す。これも授業で図やグラフと照合させながら文章を理解し、自分の考えをしっかりと書く指導を繰り返し取り組み、定着させていく必要があると考えております。6ページをご覧ください。小学校の算数です。A、Bともにやや低いという傾向にあります。正答率に関しては、全道全国との差が平成26年度よりも広がっている傾向にあり、A問題では量と測定、B問題では数量関係が大きく差が開いているところです。7ページをご覧ください。具体的には成果が見られる部分は「 $28+72$ 」。このところは正答率が高いことがうかがえますが、課題としては「 $5/6 \div 7$ 」の計算などが挙げられております。計算に慣れるために繰り返し反復練習をする学習が必要と考えております。8ページをご覧ください。数学Bに関してです。成果の見られる設問例としましては、平行四辺形の特徴を選ぶという部分。しかし課題といたしましては、20%増量した商品の内容量が480mlであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く、というような、文章問題等で問題を丁寧に読み、図や数直線に表して分かりやすく捉えていく指導が今後必要になると考えております。9ページをご覧ください。小学校理科については、ほぼ同様下位の状況となっております。ただ平成24年度と比べますと、全国平均との差が縮まっておりますし、4領域、物質・エネルギー・生命・地球の部分に関しましては、全道平均とほぼ同様の傾向にあります。10ページをご覧ください。メダカのオスとメスを見分けたり、メスシリンダーの名称を書く部分はよくできておりますが、物質の水の温度、砂糖が水に溶ける量との関係をグラフから水の温度が下がった時に出てくる砂糖の量など、グラフをもとに溶ける量と温度の関係を考えたりしながら、実験に取り組みせる部分が今後必要になってくると考えております。11ページをご覧ください。ここからは中学校の方に入っていきます。国語につきましてはA問題が低い、B問題が相当低いという結果となっております。12ページをご覧ください。成果の見られる設問例としましては、相手の反応を踏まえて話す、それから「詳細」という漢字を読む部分はできておりますが、課題と見られる例としましては「余ったお金」の「余った」という漢字を書く、「青い」「青さ」という品詞を選ぶ部分が課題となっております。今後におきましては、書くことの指導や、文法的な知識に加え、具体的な文章を通して考えさせる指導をしていく必要があると考えております。13ページをご覧ください。課題の見られる設問例としましては、目的に応じて文章を要約するという部分がございます。この部分に関しても、キーワードに着目させながら、文章を読ませ、段落相互の関係や文章の構成を確認させる指導が今後必要になってくると考えております。14ページをご覧ください。数学です。Aは低い、Bは相当低いという結果になっております。具体的には15ページをご覧ください。中ほどに記載されている、 $2x-y=5$ を y について解く、それから $1.2x-6=0.5x+1$ を解くという正答率が低くなっております。基礎基本の内容、特に計算を中心に授業や家庭学習をしっか

りと改善・充実させることが必要と考えております。16 ページをご覧ください。数学のBについてです。連続する5つの整数の和について表現する項目が下がっております。条件をつけた項目の部分に関して、前提と結論の両方を明確にして表現できるように指導することが今後必要となってきました。17 ページをご覧ください。中学校の理科です。低い傾向を示しております。18 ページにありますように、塩化ナトリウムの化学式を選ぶという問題は成果が見られておりますが、電流・電圧・抵抗の部分の物理の部分に関しては課題が見られております。今後の指導にあたっては、電圧・電流のグラフからしっかり考えていくような必要もあると考えております。続きまして19 ページからは、児童・生徒の質問紙になっております。1 番の朝食を食べる習慣については、ほぼ定着傾向といえます。それから起床時刻・就寝時刻に関しては、特に起床時刻のほうに定着傾向が見られます。20 ページのテレビ・ビデオ等の視聴やゲームの時間、ならびに21 ページ、1 日あたりのテレビゲーム、携帯電話等によるメール・インターネットの時間に関しては増加の傾向があります。家庭学習の時間にも関わってきますので、ここが課題と考えております。22 ページをご覧ください。家庭学習・読書についてです。土・日の学習時間は中学生が増加傾向にあります。23 ページをご覧ください。「計画を立てて学習する」は中学生が増加傾向にありますが、まだまだ全国平均から比べると低いので、このところも課題として捉えております。24 ページをご覧ください。学校や図書館で2 時間以上読書をする生徒が増えております。しかし、読書を全くしない生徒も増えているのが現状ですので、そこも今後の検討課題と考えているところです。24 ページの下段をご覧ください。国語の学習になります。決められた字数の作文を課題とする小中学生は全国とほぼ同じ傾向となっております。25 ページをご覧ください。「自分の考えを表現する」ことは改善の傾向にあります。また26 ページ、「国語の授業が分かる」ことは昨年とほぼ同様となっておりますが、全道全国に比べると低い傾向にあります。続きまして算数・数学の学習についてです。算数・数学のノートの工夫については、昨年とほぼ同様となっておりますが、27 ページをご覧ください。「算数・数学の授業は将来に役立ちますか」という部分に関しては小学校・中学校共に低く出ていますので、授業や指導の部分が今後の課題となってきましたし、その下の「授業が分かりますか」という部分も低くなっておりますので、今後授業改善が必要と考えております。28 ページをご覧ください。理科になります。「理科の学習がわかる・好き」は、全国平均以上になっております。また29 ページ、「理科で自分の考えを表現する」は、向上の傾向にあります。将来に関する部分で、自尊意識は、全道全国とほぼ同様となっております。30 ページの下の方の規範意識、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」という部分に関しては、中学生の方に向上の傾向が見られております。31 ページをご覧ください。ここからは学校質

問紙に入ります。学力・学習の規律に関して、「礼儀正しく落ち着いた態度で授業に臨んでいる」という部分に関しては全国全道平均を上回り、礼儀正しい態度で授業に臨んでいることがうかがえます。32 ページをご覧ください。読書活動についてですけれども、この部分は定着の傾向が見られます。また放課後や長期休業中を利用した補足的学習サポートについても全道全国を上回り、充実していると考えております。33 ページをご覧ください。下の部分の、全国の学力学習調査の結果を押さえての改善についても、小学校の方に上昇が大きく、教育指導への改善が見られます。34 ページの学習規律の維持徹底については、定着をしております。それから 34 ページの下段の「教科の特質に注目した指導の改善」は、各教科で改善が見られているところです。国語について「書く習慣」については、「よくやった」「よく行った」という状況が出ておりますし、35 ページをご覧ください。実生活における事象と関連した授業、それから理科の観察・実験の結果を整理した指導についても全国を上回っております。36 ページをご覧ください。言語活動を取り入れた学級やグループでの話し合い、発言や活動時間の確保、資料を使つての発表の部分に関しては、小学校、中学校共に全道全国を上回っているところです。37 ページをご覧ください。各教科における家庭学習の指導を学校として与えたかという部分に関しても、取組みの成果が出ております。どの教科においても家庭学習を出しているという結果が出ております。それから 39 ページをご覧ください。家庭学習に対する保護者への働きかけ、校内の教職員での共通理解についても全国より高い傾向が見られます。40 ページをご覧ください。地域・小中間の連携に関わっては、学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者・地域が学校に様々な活動で参加している部分が高い評価を得ております。また小中の連携も研修、教師間の交流、学校間の接続などで高い成果を得ているところです。以上、説明申し上げましたが、非常に厳しい現状であると認識しております。学校質問紙の状況と実際の学力の定着、児童生徒の受け止めに差がある部分がありますので、今後児童生徒の受け止めも大切にしながら、実態をしっかりと把握し、成果と課題を客観的に判断し、今後対策を進めていくことが重要と考えております。以上です。

（徳田委員長）ありがとうございました。ただ今、事務局から報告のありましたこの件につきまして、ご質問等ありませんでしょうか。

（松尾委員）ご説明をいただきありがとうございます。石狩市としては少し厳しい結果が出たということですが、個々の具体的な教科や質問内容につきましては、全体を通して検証すると 1 ページの「はじめに」に記載されているということで理解しました。それで一点、私が気になったのは、生活習慣の部分で、

スマートフォンや携帯ゲームの使用時間について非常に長く使っているという印象を受けているのですけれども、その対応策としてはやはり学校と家庭の連携というか、家庭の協力といったものが欠かせないと思いました。家庭に対する取り組み等について、何か考えていることや、既に実践されていることの中で芽が出てきたことなど、何かありましたらお聞かせいただきたいと思います。

（濱本指導担当参事）保護者・家庭との連携に関しましては、一年に2～3回、個別に教育相談を行っております。その中で家庭での様子や学校での様子を交流しながら各個人に応じた部分に関して、話し合いを進めているところです。学校全体としても、長期休業中に生活リズムチェックシートを配布して、どんな生活リズムで、勉強はどれくらいの時間取り組んで、何時に起床するかというようなことを計って、それを休み明けに保護者の意見を書きいただきながら担任が把握し、またコメントを返していくようなことも行っております。また、生活ノート等を通して、自分が家庭でどれくらい勉強したか、テスト前等に生活ノートの交換を行うことを通して家庭状況も把握しているところです。そのような家庭との連携の取り組みを行っていますが、この携帯電話については、特に中学生は3時間以上の使用が30.5%と非常に割合が高い状況にあって、学習時間が短くなっているということが十分考えられますので、今まで以上に家庭との連携を深める取り組みが必要です。市町村においてはノーゲームデーなどの取り組みを行っているところもありますので、検討していくことは必要であると思っております。以上です。

（松尾委員）他の自治体の事例も参考にさせていただきながら、もう少し大きな柱として取り組まなければいけないのかなというような気がいたしました。以上です。

（門馬委員）今の課題について、石狩市が特にポイントが高いという原因はわかるのでしょうか。例えば、両親ともに家にいない時間が長くて、子どもだけで過ごす時間が多い結果、インターネットやスマートフォン、携帯ゲームを利用する時間が長くなってしまっている家庭が多いということなど、原因というのは分析できるものなのでしょうか。

（武田教育指導担当次長）ここでご提示していますのは石狩市全体の結果ということで、各学校のそれぞれの児童生徒の結果をさらに丸めてあるのが今回の平均であり、市教委といたしましては、その中に市内の校長・教頭会の中からの学力向上対策チームという役割を担う先生が4名いらっしゃるのですが、次週その先

生方と共にこの結果について交流をして、一つ一つのところまで我々が承知しているところではありませので、各学校の中でそういう事情があるのであれば、それも分析に加えたいなと考えているところでございます。以上です。

（山本委員）この資料を見て感じたのは、全体的に授業態度は良いのに点数が取れないと、一言で言えばそのように感じたのですけれども、小学校、中学校の授業を訪問して見てみると、授業態度は確実に良くなっていると思っています。特に中学校を見にいくと、数年前と比べて格段に良くなっていて、授業中もおしゃべりをしている子はいないですし、すごく良くなっているのがわかります。小学校の授業を見ていても、ノートの取り方を徹底的に指導しているなどというのもよくわかりますし、先生方の努力も分かるのですけれども、ただ結果として点数が伸びていないということで、どういうところができているのか、できていないのかという細かいところを見たときに、応用を含んだ正答率の悪い問題というのは、塾に通っていたり、家庭学習で問題を解く量を多くしている子どもにとっては何ともない問題だったりするのですよね。ただ徹底して身につくまで学校でできるかという、そこまでやっている時間はないでしょうし、そのことに時間をかけるよりも、もっとやらなければならない内容も決まっているので、先生も一人で授業をしていますし、2～3人の補助の先生に入ってきてもらって、できない子に応じた対策をしてもらえれば、それはできるようになるのでしょうかけれども、そういうこともできなかったりすると、もう当然できないまま次の項目に進んでしまうという子も多くなるでしょう。このことはそういう補助の先生を入れる予算の措置や、例えば放課後の補助的な授業をボランティアで行うというようなこともできれば、改善につながるのではないかと思います。以上です。

（門馬委員）児童生徒への質問紙というのがありまして、学校に対する質問紙もありますよね。これは、親に対する質問紙というのはいくつも無いのですね。そこで思いましたのは、先生方が一生懸命努力されているということがこの質問紙を見ても良くわかり、また子ども達も今、山本委員がおっしゃったように授業中もきっちりと落ち着いて授業を受けている。それなのに成果が出ないというのは一体どういうことなのだろうと思うのは、やはり家庭学習の問題なのかなと**推測されます**。それで家庭学習ということになると、子どもが家に帰ってから何をやっているのだろうかという、テレビゲームをしたりインターネットをしたりして勉強に手がつかないという状況なのではないでしょうか。どのように分析をされますか。

（武田教育指導担当次長）この資料を元にして、そのようなご質問をされると、「いや、それでもございません」とも言えないというものかなと思っています。

今回のいくつかの問題の中には、素直に答えが出しやすいものもあれば、少し考えを深めて答えを出さなくてはならない性質の問題が出ています。そういったものを考えると、特に国語のA、算数のA問題を開いたときに、本当に理解して知識として蓄えられているのだろうかということが問われた問題が私は特徴的だなと思っております。そこを考えてみますと、一つは学習の量的なもの、もう一つは学習としての質的なもの、その二つを問われたというような感じがしております。もちろん量ということであれば、学校内部でしっかりとした補充的な学習を含めて、学び残しが無いようにしっかりと身につけるということも重要でしょうし、また家庭に帰ってから、今日やった学習を振り返るということも大切だと思います。それで質ということからいうと、学習内容に応じた指導方法をより一層工夫しなければならないなと思ったのが今回の結果だと受け止めております。問題の性質によっては素直に問題文どおり解くということも大事ですし、またいくつかの資料を基に、そこから答えを出さなくてはならないといった問題もありますので、そういったその学習の内容による指導方法の工夫改善を進めていかななくてはならないと考えております。もちろん学校だけでは十分ではありませんので、家庭の力も借りながら子ども達の力をより一層引き出したいと今のところ考えているところです。以上でございます。

（松尾委員）ここまでの質疑を伺いながら私も色々考えていたのですが、全体的に下がるよりも勿論上がった方が良いわけで、今後上げていこうというのはもちろん良いことなんだろうと思うのですが、1 ページ目の「はじめに」の2 段落目に書かれてあるような、今回この学力・学習調査の正答率が低いということは、習得することが望ましいと国が判断した個別の学習内容が身につけてないということと、もう一つは、下位層の割合が多いということは社会で自立していくために必要最低限の学力を保証する観点からも大きな課題であるということにおいては、これはあくまで平均なのですが、では実際の分布がどうなっていて、どの程度下位層の子ども達がいるかなど、もう少し細かいことも我々も考えていかなければならないのかなと思うのですが、現状の授業だけでなかなか社会で自立していくために必要最低限の学力を保証しにくくなっているということであれば、先程山本委員がお話しをされていたようなことも含めて、今後の課題としてももう少し考えていかなければいけないのかなということを感じました。以上です。

（徳田委員長）私からも感想等を含めて申し上げますが、学校の先生方はかなり努力をされているのだろうと思います。ただ結果を見ますと、この学校質問紙に対する回答からはかなり改善されているような方向が何点か見られているかと思

うのですね。例えば 34 ページの「教科の特質に注目した指導の改善に成果」では小学校・中学校とも全道全国より高くなっていて、そういう努力をされている点がかえりうるわけです。また 32 ページの「放課後や長期休業中を利用した補助的な学習サポート」も、これもやはり全道全国よりも改善されて充実されている結果が出ているかと思っているのですが、それが現状で小学生、中学生の学力テストの結果に残念ながら結びついていないという点が、以前も申し上げましたがやはり気になるところで、努力された結果が来年、2 年先に結果がついてくるのかもしれませんが、今年度に関しては乖離しているというのであってもかなり気になっておりまして、これについて何か感想をいただければと思います。それからもう一点、ちょっと細かい点でお話するとよりはっきりするかと思うのですが、7 ページの算数 A で、課題の見られる設問例で、量と測定のところでは分度器を使って 180 度を超えた角度をどうやって求めるかということも、これも少し全道全国よりも低くなっています。これはよく理解している人は教えてもらわなくても分かるかと思うのですが、一般には先生が例を示して、経験するとかなり解答しやすいと思うので、そういう点から言いますと、細かいですが例として少しお考えいただければと思っています。こういうことについて先生方が例として取り上げていない、教えていないということなのかというのは気になることです。それから 35 ページの下段の理科の指導として、「前年度までに観察実験の結果を整理し、考察する指導を行いましたか」という点に関して、小学生の場合には非常に高くなっていて、昨年と比べて高くなっていますし、全道全国にも比べて高くなっています。逆に中学校では極端に、全道の 3 分の 1 ぐらい低くなっているというような点があって、こういうバラバラの結果が出たりしているという、こういう特定の例を挙げての質問なのですが、こういう 2 点を取ってもちょっと理解できない部分があるかなと思っています。それにつきまして何か分析されていることがありましたら教えていただければと思います。

（濱本指導担当参事）まず長期休業中の学習については、中学校では 5 校以上が 100% というように、他の全道全国と比べても非常に取り組んでいるという部分、小学校についても高い評価が出ています。長期休業中の取り組みの内容の部分もあるのかなという風には思いますが、やはり日常の授業についてもこれから大事になってくるかなと考えております。先程、次長からもありましたように、これからの全国学力・学習状況調査の結果を受けて学力対策会議を行い、その結果については各学校も分析しておりますが、この点も踏まえながら授業改善に生かしていきたいと考えております。そのような授業改善の取り組みが、例に挙げられた分度器の目盛を測ることを、授業でどのように指導しているのかというようなことに繋がってくるのかなと思っています。それからもう一つの学校質問紙の内

容が非常に高いという点に関しましては、学校の先生方も非常に努力しているということがうかがえますし、ただその一方で、この学校質問紙を書いているのは多分管理職だと思いますので、その管理職の捉え方と授業をしている授業者との認識に差が出ているのではないかと考えておりますので、その点に関しまして今後もう少し調査していきたいと考えております。以上でございます。

（武田教育指導担当次長）濱本参事からお答えした内容の繰り返しになるかもしれませんが、先程の分度器の問題についてですが、180 度より小さい角度であれば測れるのだけれども、その半円よりも大きくなる 180 度以上の角度の正答率が低いことについては、本当に理解していたのかどうかというのを一つ問われた問題だろうと思います。また一方で、知識ということ言えば、理科でメスシリンダーという器具の名称をしっかりと覚えていたり、あるいはメダカの雌雄の見分けができるなどといった良いところもあります。したがって、教科によってその問題の性質や条件があると思うのですけれども、そこのところも吟味しながらより一層改善に近づけていきたいと考えているところです。児童質問紙と学校質問紙で、児童生徒の受け止めが違ふということにならないように今後詰めてまいりたいと考えております。以上でございます。

（徳田委員長）ありがとうございます。今年度の結果を良い機会と捉えて次の更なる改善の方向に結び付けていただければありがたいと考えております。

（徳田委員長）他に質問はありませんか。

質問なし

（徳田委員長）それでは他に質問が無いようですので、報告事項①を了解ということでよろしいでしょうか。

異議なし

（徳田委員長）ご異議なしと認め、報告事項①を了解いたしました。

② 平成 28 年石狩市成人式について（開催案）

（徳田委員長）報告事項②「平成 28 年石狩市成人式について」、事務局から報告

をお願いいたします。

（東社会教育担当次長）私から平成 28 年石狩市成人式の開催案についてご報告申し上げます。資料の 1 ページをご覧ください。期日につきましては平成 28 年 1 月 11 日月曜日・祝日でございます。会場は花川北コミュニティセンター。対象数につきましては、現時点においては 487 名でございます。若干昨年よりも少し減ったという状況でございます。日程につきましては 14 時から太鼓によるオープニングの演奏に始まり、開式の言葉、主催者あいさつ、来賓祝辞披露、恩師からのビデオレター、成人の誓い、閉式の言葉、15 時から記念撮影ということで日程を合わせていただいております。後ほど皆様には正式なご案内を申し上げたいと思いますので、ご出席方についてよろしくをお願いいたします。私からは以上でございます。

（徳田委員長）ただ今、事務局から報告ありましたが、この件について質問等ありませんでしょうか。

質問なし

（徳田委員長）それでは質問等が無いようですので、報告事項②を了解ということとよろしいでしょうか。

異議なし

徳田委員長：ご異議なしと認め、報告事項②を了解いたしました。

日程第 6 その他

（徳田委員長）日程第 6 その他を議題といたします。事務局よりお願いいたします。

（清水市民図書館副館長）私から資料（チラシ）でお配りしております「みんなで話す、図書館カフェ」という基調講演とワークショップのイベントについてご報告します。まず開催に至った経緯についてですが、昨年度の図書館ビジョンの策定に当たりまして、図書館協議会に対し諮問をしたところ、答申内容に住民調

査の実施とその結果を活用したサービス改善の視点が入っておりました。これを受けまして、調査自体は計画の中間年である再来年度を目途に実施したいと考え、今年度の取組みを検討していたところ、助成金の交付が決定いたしまして、今回のワークショップの実施の運びとなりました。具体的内容ですが、まず企画運営につきましては図書館協議会の中にワークショップ部会を構成していただきまして、これまでに2回程度会議を開催して、内容を検討していただきました。また企画運営のコーディネート等につきましては、ここ数年、札幌市等のまちづくりの現場でワークショップなど住民参加のまちづくりを実践されているコンサルティング会社の石塚計画デザイン事務所に依頼をしているところです。具体的な開催内容ですが、11月28日土曜日、午後1時半から4時半まで、市民図書館エントランスホールで行います。対象者は一般50名、内容は2部構成で、基調講演として紀伊国屋書店の札幌本店店長の石堂様に講演いただいた後、第2部では茶話会ということで、図書館と利用者の距離を縮めることをテーマに、物理的な距離の他にも、心理的な距離もあるのではないかとということを図示しておりまして、一度利用登録したけれども利用しなくなってしまった方や、本は買うものであって図書館には期待していない人など、心理的な距離がある理由を探って、市民の利用登録率を上げるためのヒントを得たいと考えております。現在の申し込み状況ですが、図書館協議会委員の方を含めまして23名のお申し込みをいただいている状況です。高校生等の若年層の参加も働きかけるなど、幅広の年代を対象に開催周知をしていきたいと考えております。私からは以上です。

（徳田委員長）ありがとうございました。ただ今、事務局から説明のありましたこの件につきましてご質問等はありませんでしょうか。

（松尾委員）今、お話いただいた中で、本は本屋さんで買いますよという人の中で、図書館はこのような形で利用してもらっているだとか、まさに第2部でお話し合いになるようなテーマの中で、もしいくつか事例や方向性についてご存知のことがあればちょっとお聞かせいただければと思います。

（東社会教育担当次長）先程、清水副館長から申し上げたように、2回程度の企画会議を開催して具体的なテーマを決めましたが、実際に出された意見として、実際に本は買うものだという前提で、読書はするのだけれども、図書館に行っても読みたい本が見つからないだろう、そして集中して借りられている、予約されているということになればすぐには手に入らないだろうということもあって、そういった意味で、本は読むけど図書館は利用していないという意見が出ていたりしました。後は距離的な部分であるとか、開館から15年経ちまして最初の頃は図

書館を活用していただいた方も年齢を重ねる中で来づらくなったりしているのかなとイメージとしてはあつたりするものですから、そういったマイナスの要因というものが今回のお話の中で出てくれば、次にアンケートに取り組んでいく形になるのですが、その際のヒントになっていくのではないかとということで今回茶話会という形で多くの方に参加していただいて、良い所もあるという評価もいただいているのですが、そうではなくて、実際こうだったらもっと使いやすいのにとこの言葉をいただければ、できることできないことはあると思うのですが、それを整理していきたいと考えています。

(松尾委員) わかりました。

(徳田委員長) 他にご質問等がありますでしょうか。

質問なし

(徳田委員長) それでは、ご質問等が無いようですので、この件も了解ということでよろしいでしょうか。

異議なし

(徳田委員長) ご異議なしと認め、その他を了解しました。以上で日程第6 その他を終了いたします。

日程第7 次回の会議日程

(徳田委員長) 日程第7、次回会議の開催日程を議題といたします。次回につきましては12月17日の木曜日13時30分からの開催を予定しております。よろしく願いいたします。以上をもちまして公開案件は終了いたします。非公開案件の説明員以外の方はご退席をお願いいたします。

(休憩 14 時 53 分～15 時 00 分)

【非公開案件の審議等】
15 時 00 分～15 時 52 分

閉会宣告

（徳田委員長）以上をもって、11 月定例会の案件は、全て終了いたしました。以上で、平成 27 年度教育委員会会議 11 月定例会を閉会いたします。

閉 会 15 時 53 分

【非公開案件の審議等の結果】

日程第 2 議案第 1 号 学校整備の具体策（案）について

原案どおり可決した。（質疑等省略）

議案第 2 号 石狩市教育委員会職員の人事異動について

原案どおり可決した。（質疑等省略）

日程第 4 協議事項① 平成 28 年度教育委員会予算要求について

事務局からの説明について、了解した。（質疑等省略）

会議録署名

上記会議の経過を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名します。

平成28年3月22日

委員長 徳 田 昌 生

署名委員 門 馬 富士子